

イザヤ書 2章 1-5節 神を待ち望む中で

今年10月7日の朝6時半頃、ガザ地区の一部を実行支配するイスラム・テロ組織のハマスがイスラエルに壊滅的な攻撃を仕掛け、第二次世界大戦以降、最大のユダヤ人犠牲者を出しました。一日で859人のイスラエル市民と少なくとも345人のイスラエル軍兵士と警察官が殺されました。さらに、子供、約30人を含む、約200人のイスラエル市民と兵士が人質としてガザ地区に連れ去られました。イスラエルはもちろん、ガザ地区に侵攻して、ハマスに報復しました。さらにハマスが一般市民の中に身を隠しているため、ガザ地区では、この報復により、1万人以上の死者が出ていると言われていています。もちろん、この戦争にはさまざまな見方があり、私たちの教会でも、いろいろな見解があるでしょう。今日のメッセージは、この状況にタイムリーなものです。このアドベントの第2週目のテーマは、平和です。そして、私たちの住む世界の中には、中東だけでなく、多くの地域において、平和の欠如が見られるのです。ロシアとウクライナ、ナイジェリアなどの国内のテロ問題、世界中の暴力や犯罪、台湾や中国、北朝鮮や韓国などでは緊張が続いています。

今日は、将来、平和が訪れることを信じる理由となる、イザヤ書に書かれた素晴らしい約束を見ていきましょう。アドベントでは、キリストの再臨を待ち望むことに焦点を当てます。先週、お話しした希望の一つは、罪のために起きる戦争や暴力、そして病が、やがて平和のうちに終わる日が来るということです。今回の箇所は**イザヤ書2章1節—5節**です。そしてこの箇所は、今日イスラエルで起こっていることにつながるような形で始まっています。何人かの方からこのイスラエルの状況について質問を受けましたので、このメッセージの中で聖書の原則を説明していきたいと思えます。さらに、このことをもっと深く知りたい方は、日曜学校の時間を使って、このことについてもっと詳しく話す予定にしております。それでは、まずこの箇所の最初の**1節—3節**を読みましょう。¹**アモツの子イザヤが、ユダとエルサレムについて見たことは、**²**終わりの日に、主の家の山は山々の頂に堅く立ち、もろもろの丘より高くそびえ立つ。そこにすべての国々が流れて来る。**³**多くの民族が来て言う。「さあ、主の山、ヤコブの神の家に上ろう。主はご自分の道を私たちに教えてください。私たちはその道筋を進もう。」それは、シオンからみおしえが、エルサレムから主のことばが出るからだ。**預言者イザヤが見ており、この箇所で述べられている、この平和への道は、南のユダ王国にあるエルサレムの町からスタートしています。この「終わりの日に」という言葉は、聖書では、終末の時代を表すのに使われています。そして、いつでも終末論と呼ばれる終末の時代の神学や学問を論じると、多くの異なる意見に行き着きますが、それらはすべて聖書における二次的な問題、あるいは三次的な問題であり、福音の中核をなすものではありません。黙示録20章を、ミレニウム（千年王国）と呼ばれる、イエスが千年間、平和に統治を行う期間として、文字どおりに、私は読んでいます。私はイザヤがこのイザヤ書で述べているのは、この期間だと考えています。**黙示録 20章1節—3節**¹**また私は、御使いが底知れぬ所の鍵と大きな鎖を手にして、天から下って来るのを見た。**²**彼は、竜、すなわち、悪魔でありサタンである古い蛇を捕らえて、これを千年の間縛り、**³**千年が終わるまで、これ以上諸国の民を惑わすことのないように、底知れぬ所に投げ込んで鍵をかけ、その上に封印をした。その後、竜はしばらくの間、解き放たれることになる。これは千年王国を指していると思えますが、黙示録21章1節—2節に記述されている新しい天と新しい地における永遠の状態を指している可能性もあります。**¹**また私は、新しい天と新しい地を見た。以前の天と以前の地は過ぎ去り、もはや海もない。**²**私はまた、聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために飾られた花嫁のように整えられて、神のみもとから、天から降って来るのを見た。**アミレニアル派（無千年王国説）に立つ人やポスト・ミレニアル派の立場に立つ人でさえ、ここに書かれた永遠の 때가、絶対的な平和の時であることには同意するでしょう。

ここで描かれた場面が、千年王国を指しているのか、それとも永遠の国を指しているのかは、重要ではないのです。ここで重要なのは、このエルサレムの町からキリストが統治する時、すべての国々に平和が訪れるということなのです。それでは、次の2節を見て、最初の3節に戻ってきましょう。⁴**主は国々の間をさばき、多くの民族に判決を下す。彼らはその剣を鋤に、その槍を鎌に**

打ち直す。国は国に向かって剣を上げず、もう戦うことを学ばない。⁵ ヤコブの家よ、さあ、私
たちも主の光のうちを歩もう。ここで明らかなのは、エルサレムが戦争の中心地や憎しみの中心
地となるのではなく、エルサレムが本来あるべき姿となる日が来るということです。それは、す
べての国の人々がやって来て、主の、すなわち新約聖書で書かれているようにイエス・キリスト
の正義と平和を見出す場所となることでした。エペソ人への手紙、1章では、父なる神が子なる
神、イエス・キリストを真の王とされたことを明らかにしています。エペソ人への手紙1章20節
—21節では、²⁰ この大能の力を神はキリストのうちに働かせて、キリストを死者の中からよみが
えらせ、天上でご自分の右の座に着かせて、²¹ すべての支配、権威、権力、主権の上に、また、
今の世だけでなく、次に来る世においても、となえられるすべての名の上に置かれました、と書
かれています。そして、ここで述べられている神を礼拝するために諸国民がエルサレムの神殿にや
ってくるという目的が、エルサレムとそこにある神殿、ひいてはイスラエルという国に対する神の
本来の目的であったのです。イエスが地上におられた時代の神殿には、異邦人の中庭と呼ばれ
る、ユダヤ人以外の人々が特別に礼拝を許された場所がありました。また、ソロモンの時代のオ
リジナルの神殿、イエスの時代とはおそらく構造が違ったのですが、その時代に戻ると、ユダヤ
人の習慣に従い、安息日を守る人であれば、国籍に関係なく誰でも神殿の中に入って礼拝するこ
とができたというのが、学者の一般的な見解です。神は、あらゆる国から人々がやってきて神を
礼拝することを望まれ、イスラエルという国は、その礼拝が行われる中心地となり、ある意味で
は、将来もその中心地となることを望まれたのです。

もちろん、これは未来を描くための預言的な言葉です。旧約聖書に登場する神殿の山やシオン山
は、エルサレム市内で最も高い場所にありますが、世界の人々が駆けつける世界の中心地という
わけではありません。また、現在のイスラエルは、その大多数がユダヤ人で構成されていま
すが、聖書の神の民とは異なるのです。この点に関して、すべての人が合意することはできませ
んが、しかし、私は、ローマ人への手紙9章から11章に基づき、神の民は、民族・出自に基づくも
のではなく、実際に神に従い、神を礼拝するかどうかに基づいていると考えています。ローマ人
への手紙9章6節—7節を抜粋してみると、…イスラエルから出た者がみな、イスラエルではない
からです。⁷ アブラハムの子どもたちがみな、アブラハムの子孫だということではありません。
パウロがこのようなことを書いたのは、イスラエルの民の大多数が、イエスを拒み、自分たちの
神を拒んだからなのです。だから、ローマ人への手紙10章9節で、彼は救いが民族に基づくの
ではなく、その代わりに信仰に基づくことを明らかにしています。ローマ人への手紙10章9節で
は、なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中
からよみがえらせたと信じるなら、あなたは救われるからです、と述べられています。パウロは、ロ
ーマ人への手紙11章で、神は残りの者、言い換えれば、少数ではあるが確実な数のユダヤ人が救
いに選ばれたと述べています。ですから、同じように今この時にも、恵みの選びによって残され
た者たちがいます。ローマ人への手紙11章5節—7節には次のように書かれています。⁵ 同じよう
に今この時にも、恵みの選びによって残された者たちがいます。⁶ 恵みによるのであれば、も
はや行いによるものではありません。そうでなければ、恵みが恵みでなくなります。⁷ では、どうな
のでしょうか。イスラエルは追い求めていたものを手に入れず、選ばれた者たちが手に入
りました。ほかの者たちは頑なにされたのです。しかし、ローマ人への手紙11章に書かれてい
るのは、神の選びにはイスラエル人やユダヤ人だけでなく、異邦人も含まれるという点です。イスラエル
について言えば、パウロはローマ11章11節で次のように述べています。ローマ人への手紙11章
11節、¹¹ それでは尋ねますが、彼らがつまずいたのは倒れるためでしょうか。決してそんなこと
はありません。かえって、彼らの背きによって、救いが異邦人に及び、イスラエルにねたみを起
させました。パウロは神の民をブドウの枝として表現しており、私はこのブドウの木の幹をイエ
ス・キリストであると、解釈しています。神を信じているユダヤ人の一部の人々は、ぶどうの木
の自然な枝であり、異邦人は接ぎ木された枝なのです。だから、パウロは、ローマ人への手紙
11章19—21節でこのように述べているのです。¹⁹ すると、あなたは「枝が折られたのは、私が
接ぎ木されるためだった」と言うでしょう。²⁰ そのとおりです。彼らは不信仰によって折られま

したが、あなたは信仰によって立っています。思い上がることなく、むしろ恐れなさい。²¹ もし神が本来の枝を惜しまなかったとすれば、あなたをも惜しまれないでしょう。

新約聖書の神の民がイスラエル民族ではなく、イエスを信じる人々であると定義されているという事実に基づいて考えるなら、この未来の平和の絵は、必ずしも現在のイスラエルの地やイスラエル民族と結びついているわけではないと解釈することができます。もちろん、この考えに強く反対し、イスラエルの民族の回復を示していると言う見解もあり、私はその見解に賛成はしていませんが、キリストにある兄弟姉妹として、このことで争うべきではないと考えています。このイザヤ書のこの箇所から明らかなのは、キリストの平和の支配が地上のあらゆる国、あらゆる民族に影響を及ぼすということです。**2節—3節には、そこにすべての国々が流れて来る。³ 多くの民族が来て言う、**と書かれています。なんと素晴らしいことなのでしょう！あらゆる国々の人々がイエスを礼拝し、イエスから学ぶために来ており、その結果どうなるかが4節に述べられている。**彼らはその剣を鋤に、その槍を鎌に打ち直す。国は国に向かって剣を上げず、もう戦うことを学ばない。**現在の戦争において槍や剣で戦う国はありません。その代わりに、より破壊的な武器、ライフルや戦車、ミサイル、爆弾、化学兵器、さらには核兵器などを使って戦争をしているのです。イエス・キリストの支配のもとでは、戦車やミサイルの製造に使われていた金属は、地上の人々が楽しむための食料の栽培に使われるようになるでしょう。また、軍人を訓練する士官学校や、クラウゼヴィッツの『戦争論』、孫子の『兵法』などの本も必要なくなるでしょう。なぜならばイエス・キリストが再臨されれば、戦争はなくなるからです。

この平和が未来に可能である最も明白な理由は、イエスが地上に君臨しているからです。しかし、この聖書箇所は、その君臨の結果として起こる、平和につながる非常に具体的なことを教えてくれます。3節の一部を見てみましょう。**主はご自分の道を私たちに教えてください。私たちはその道筋を進もう。」**それは、シオンからみおしえが、エルサレムから主のことばが出るからだ。ここで何が起きているかわかりますか？人々は、イエスに学び、イエスの「道筋に進む」、つまりイエスに従うために、やってくるのです。人々がイエス・キリストに服従し、自分たちの神に従うようになれば、国々は平和を経験し、世界は平和を経験することができるのです。この世の問題は、最初の人間アダムによる一つの罪から始まりました。罪によって引き起こされたこの世の問題は、イエスの死、一人の人間の従順によって贖われ、贖いへの道が作られることで、解決への道が示されました。そして、罪によって引き起こされたこの世の問題は、最終的にはすべての人間の従順によって終わりが告げられるのです。それはどのようにして起こるのでしょうか？律法と主の言葉を語られること、あるいは、この聖書箇所に語られているように、「**主のことばが出る**」ことによって、起こるのです。つまり、神によって語られる神の言葉への従順が、この未来に平和をもたらす、維持するのです。ここで、この未来の平和という考え方を、今日の私たちの生活に適用できるようにしていきたいと思えます。

この聖書箇所は、いずれイエスが再臨されれば、エデンの園に存在した平和がこの地上に回復される日が来るという事実を語っており、私たちはこの事実から、勇気と慰めをえることができます。しかし、一方では、私たちはその平和が存在しない時代に生きているのだから、地上での生活の中でさまざまな緊張が存在することも語っています。イエスはこのことに触れ、それは普通のことであり、望ましいことではないが、私たちはこの平和のない状態について心配するべきではないと言っておられます。**マタイの福音書 24章6節**では、⁶ **また、戦争や戦争のうわさを聞くことになりませんが、気をつけて、うろたえないようにしなさい。そういうことは必ず起こりますが、まだ終わりではありません、**と述べられています。しかし、今日の聖書箇所ですべて述べられている地球規模でもたらされるこの平和は、いずれ地上に広がるのと同じように、私たち個人の生活にも今日広がっているのです。平和は従順によってもたらされるのです。そして、ただそれだけなのです。私たちは、イエス・キリストへの従順によって平和を見だし、生活の中で平和を維持することができるのです。イエスは、**ヨハネの福音書 14章27節**で、²⁷ **わたしはあなたがたに平安を残します。わたしの平安を与えます。わたしは、世が与えるのと同じようには与えません。**

あなたがたは心を騒がせてはなりません。ひるんではなりません、と言っています。イエスは私たちに平安を与える用意があり、常に与えてくださっているのです。

では、なぜ私たちは人生の中でこれほどまでにイエス様が与えてくださる平和を見逃してしまうのでしょうか。ここでは、簡単に3つの理由を挙げます。一つ目の理由は、私たちが、救い主ではなく、自分たちが直面する問題に目を向けてしまうからです。これは、7月のVBSで見た物語の中で、弟子たちがしたことです。弟子たちはボートに乗っていましたが、波と風が船に打ちつけ始めると、怖くなってしまいました。その時、波や風の創造主が自分たちとともにあり、「黙れ、鎮まれ」というたった二つの小さな言葉で波を静めることができることを失念していたのです。イエスは、私たちが最も深い痛み、最も深い苦しみの中にある時に、私たちのそばにおられるのです。二つ目の理由は、イエスに従順になり、人生をかけてイエスに仕えるのではなく、神のためではなく、自分自身と自分の欲望のために生き続けてしまうからです。私たちはクリスチャンであっても、ただ、好きだからという理由で罪に溺れ続けている時があります。神の栄光や神の計画を求めるのではなく、お金や権力や財産を追い求めるために生きている場合があります。つまり罪の中に生きているのです。ガラテア人への手紙 6章7-8節では、⁷ 思い違いをしてはいけません。神は侮られるような方ではありません。人は種を蒔けば、刈り取りもすることになります。⁸ 自分の肉に蒔く者は、肉から滅びを刈り取り、御霊に蒔く者は、御霊から永遠のいのちを刈り取るのです。そして、これが3つ目の理由につながっていきます。もしかしたら、あなたはキリストの信者ではないからという理由です。キリストがいなければ、あなたの人生にある平安はせいぜい一時的なもので、状況によってあなたの平安は左右されてしまうでしょう。なぜなら、キリストのいない人生は、神への不従順によって定義されるからです。罪を悔い改め、イエス・キリストを信じなさいという神の第一の命令を拒否しているのだから、キリストが提供する平安を経験することはできないのです。たとえあなたが今日ここにも、自分はクリスチャンだと言いながら、イエス中心の生き方ではなく、不従順な自分中心の生き方をしているなら、あなたが経験する平安の欠如は、あなたが本当はキリストの弟子ではないことを神があなたに伝えているのかもしれないのです。今日、あなたがどのような状況にあらうとも、平安を見出すための解決策は、イザヤ書2章5節の最後の言葉に、ヤコブの家よ、さあ、私たちも主の光のうちに歩もう、に集約されているのです。主の光の中を歩むとは、イエスに従うことなのです。今、人生に平安が欲しいですか？イエスに従いなさい。完全な平和の中で世界を経験したいですか？罪を悔い改め、イエスに信頼することによって、イエスに従いなさい。平和はイエスによってもたらされるのです。祈りましょう。

While We Wait: Advent Isaiah 2:1-5 Waiting for *Peace*

At around 6:30 in the morning on October 7 of this year, Hamas, an Islamic Terrorist organization that governs parts of the Gaza strip made a devastating attack on Israel that resulted in the largest death toll of Jews since the Second World War. In a single day, 859 Israeli civilians and at least 345 Israeli soldiers and policemen were killed. Around 200 Israeli civilians and soldiers were taken as hostages to the Gaza Strip, of which the number of kidnapped children is about 30. Israel of course has retaliated against Hamas by invading Gaza and it is possible up to 10000 deaths have happened since then in Gaza, as Hamas embeds itself in the population. Of course, there are many different viewpoints on this war, and even in our church, I am certain we would not all be in agreement. Today's message is timely to this situation. Our subject and focus for this second week of advent is peace, which is clearly not the situation in our world. And that lack of peace exists in more places in our world than just the Middle East. Russia and Ukraine, internal terrorism problems in places like Nigeria, violence and crime all over the world, ongoing tension in places like Taiwan and China, North Korea and South Korea, both of which affect us here in Japan.

So, today, I want to look at a wonderful promise in Isaiah that gives us reason to believe that peace will come in the future. And while at Advent, we focus on our wait for the return of Christ, one aspect of the hope that we discussed last week is that there will be a day where the wars and violence that plague this world because of sin will end in a state of peace. Our passage is [Isaiah 2:1-5](#). And this passage starts off in a way that may be connected to what is happening in Israel today. Several of you have asked me about this situation, so I hope to lay out some biblical principles in this message and for those who may want to get into this even more, we will spend some time during the Sunday School hour talking about it more in depth. So, let's begin by reading the first part of this passage verses [1-3](#). [The word that Isaiah the son of Amoz saw concerning Judah and Jerusalem. ²It shall come to pass in the latter days that the mountain of the house of the Lord shall be established as the highest of the mountains, and shall be lifted up above the hills; and all the nations shall flow to it, ³and many peoples shall come, and say: "Come, let us go up to the mountain of the Lord, to the house of the God of Jacob, that he may teach us his ways and that we may walk in his paths." For out of Zion shall go forth the law, and the word of the Lord from Jerusalem.](#) This path to peace that these verses tell us the prophet Isaiah is seeing, is said to originate from the city of Jerusalem, which was located in the southern kingdom of Judah. This term "latter days" is used to describe the period of the end times. And any time you discuss the theology or study of the end times, which is called eschatology, you end up with a lot of differing opinions which are all secondary issues or even third level issues in the Bible, and not core to the gospel in any way. So, I will tell you that as someone who reads Revelation 20 literally as a thousand year period of peace on earth where Jesus has a literal reign during what is called the Millennium, I think this is the period that this prophecy is referring to. [Revelation 20:1-3 says, 20 Then I saw an angel coming down from heaven, holding in his hand the key to the bottomless pit and a great chain. 2 And he seized the dragon, that ancient serpent, who is the devil and Satan, and bound him for a thousand years, 3 and threw him into the pit, and shut it and sealed it over him, so that he might not deceive the nations any longer, until the thousand years were ended. After that he must be released for a little while.](#) While I think this is referring to the Millennium, I also believe it could just as easily refer to the eternal state in a new heaven and new earth described in [Revelation 21:1-2, 21 Then I saw a new heaven and a new](#)

earth, for the first heaven and the first earth had passed away, and the sea was no more. ² And I saw the holy city, new Jerusalem, coming down out of heaven from God, prepared as a bride adorned for her husband. Even those who would be Amillennial in their views or Post Millennial would agree that the eternal state will be a time of absolute peace.

Whether this picture is of a millennium or the eternal state isn't really the issue. What is the issue is that under the reign of Christ from this city of Jerusalem, peace will come to all the nations. Let's go ahead and see that in the next 2 verses and then come back to these first 3 verses. ⁴ He shall judge between the nations, and shall decide disputes for many peoples; and they shall beat their swords into plowshares, and their spears into pruning hooks; nation shall not lift up sword against nation, neither shall they learn war anymore. ⁵ O house of Jacob, come, let us walk in the light of the Lord. There is coming a day where Jerusalem will not be the center of war and a focal point for hatred, but instead that city will become what it was always intended to be. It was to be a place where the world comes and finds justice and peace from the Lord, who in the New Testament is identified as Jesus Christ. [Ephesians 1](#) makes it clear that God the Father made God the Son, Jesus Christ, the true king. [Ephesians 1:20-21](#) says, That he [God the Father] worked in Christ when he raised him from the dead and seated him at his right hand in the heavenly places, far above all rule and authority and power and dominion, and above every name that is named, not only in this age but also in the one to come. And this idea of the nations coming to the temple in Jerusalem to worship God fulfills God's original purpose for the temple and Jerusalem and the greater nation of Israel. The temple in Jesus's time on earth had what was called the court of the gentiles where non-Jews were specifically allowed to worship. And when you go back to the original temple in Solomon's day, it was built differently, but scholars generally agree that anyone could enter and worship who followed Jewish customs and kept the Sabbath no matter what nationality they were. God wanted people to come and worship him from all nations, and the nation of Israel provided the focal point for the place where that worship happened and in some sense will happen in the future.

Now of course, this is prophetic language that is meant to paint a picture of the future. While the temple mount or Mount Zion in the Old Testament is the highest point in the city of Jerusalem, it is not exactly the center of the world where nations are running to. And the current nation of Israel, while made up of many if not mostly Jewish people, is not the same as the Biblical people of God. I know that we may not all agree on that, but I would say based on [Romans 9-11](#) that the people of God are not and actually never were based on ethnicity, it is based on those who actually follow and worship God. [Romans 9:6-7](#) partially says, ...For not all who are descended from Israel belong to Israel, ⁷ and not all are children of Abraham because they are his offspring... He points this out because he describes that the majority of the people of Israel are rejecting their God because they had rejected Jesus. So, in [Romans 10:9](#), he makes clear that salvation is not based on ethnicity but instead, if you confess with your mouth that Jesus is Lord and believe in your heart that God raised him from the dead, you will be saved. And building on that, Paul says in chapter 11 of [Romans](#) that God has elected a remnant, in other words, a small but definite number of Jews to salvation. [Romans 11:5-7](#) says, ⁵ So too at the present time there is a remnant, chosen by grace. ⁶ But if it is by grace, it is no longer on the basis of works; otherwise grace would no longer be grace. ⁷ What then? Israel failed to obtain what it was seeking. The elect obtained it, but the rest were

hardened... But what we also see in Romans 11 is that the elect people of God are not just Israelites or Jews, but are gentiles. Speaking of Israel, Paul says in verse 11 of Romans 11, So I ask, did they stumble in order that they might fall? By no means! Rather, through their trespass salvation has come to the Gentiles, so as to make Israel jealous. He describes the people of God as being branches attached to a vine that I interpret to be Jesus Christ. The believing Jewish remnant is the natural branch on the vine while the gentiles are a grafted in branch, so we have no place for boasting in our relationship with God. So, in Romans 11:19-21, Paul says, 19 Then you will say, “Branches were broken off so that I might be grafted in.” 20 That is true. They were broken off because of their unbelief, but you stand fast through faith. So do not become proud, but fear. 21 For if God did not spare the natural branches, neither will he spare you.

Based on how the people of God are defined by the New Testament as being not ethnic Israel, but those who believe in Jesus, this picture of future peace is not necessarily tied to the land of Israel and the nation of Israel. Of course, there are other views that would disagree strongly and say that this shows a restoration of the ethnic people of Israel, and while I am comfortable disagreeing with that view, I do not think we should separate over it as brothers and sisters in Christ. It is clear, though, from this passage in Isaiah, that Christ’s reign of peace will affect every nation and every ethnic group on earth. As verses 2-3 say, all the nations shall flow to it, 3and many peoples shall come... What a wonderful picture! There is every nation coming to worship and learn from Jesus, and what happens in those nations because of that is described in verse 4... they shall beat their swords into plowshares, and their spears into pruning hooks; nation shall not lift up sword against nation, neither shall they learn war anymore... Now, we know that there aren’t any nations taking up spears against each other or swords. Instead, we take up much more destructive weapons like rifles and tanks and missiles and bombs and chemicals and even nuclear weapons. But at some point, those weapons will be no more. Under the rule of Jesus Christ, the metal that may have been used to build a tank or a missile will be used to cultivate food for the people of the earth to enjoy. Schools that train our militaries in the ways of war, and books like Clausewitz, “On War” and Sun Tzu, “The Art of War” will be unnecessary as Jesus Christ makes war non-existent upon his return.

The most obvious reason that this peace is possible in the future is that Jesus is reigning over the earth, but this passage tells us a very specific thing that happens as a result of that reign that leads to peace. Look at one part of verse 3. ... that he may teach us his ways and that we may walk in his paths.” For out of Zion shall go forth the law, and the word of the Lord... Do you see what is happening here? The nations are coming so they can learn and be taught by Jesus and then “walk in” or obey what Jesus says. The nations will experience peace, the world will experience peace when all are brought into submission to Jesus Christ, and are obeying their God. The problems in this world started with one act of sin by the first human, Adam. The problems in this world caused by sin were paid for and a path to redemption was created by one man’s obedience leading to death, Jesus. And the problems in this world caused by sin will ultimately come to an end by the obedience of every human. How does that happen? God will speak the law and the word of the Lord...they will “go forth” as it says here. So obedience to the Word of God as it is spoken by God brings and maintains peace in this

future existence. This is where I want to make this idea of future peace applicable to our lives today.

On the one hand, we should read this passage and take courage and comfort from the thought that one day there is coming a day where the peace that existed in the garden of Eden will be restored to this earth when Jesus returns. But on the other hand, there will always exist a tension we experience during our life on earth, because we live in an age and time where that peace is non-existent. Jesus even addresses this and tells us it is normal and while not desirable, should not worry us. [Matthew 24:6](#) says, **“And you will hear of wars and rumors of wars. See that you are not alarmed, for this must take place, but the end is not yet.”** But this peace that comes on a global scale can come to our lives individually in the same way we see it extend to the earth. It is this truth that becomes clear in this passage…**peace comes through obedience.** That’s it. We find peace, and maintain peace in our lives through obedience to Jesus Christ. Jesus tells us in [John 14:27](#), **“Peace I leave with you; my peace I give to you. Not as the world gives do I give to you. Let not your hearts be troubled, neither let them be afraid.”** Jesus stands ready and willing to give us his peace.

So, why do we miss it so much in our lives. I want to give you three quick reasons. One, we look at the problems and not the Savior. This is what the disciples did in the story we looked at for VBS back in July. They were in the boat, when the waves and winds were crashing and they started to fear, forgetting that the maker of those waves was with them, and in just 3 small words, “peace be still” could make those waves calm. Jesus is there for you in the deepest pain, the deepest suffering saying I will never leave you or forsake you. Two, rather than obedience to Jesus and serving him with our lives, we live for ourselves and our own desires rather than God’s. We continue even as Christians to indulge in sin because we like it. We live for the pursuit of money or power or possessions rather than seeking God’s glory and God’s priorities in our lives, which means we are living for sin. [Galatians 6:7-8](#) says **“Do not be deceived: God is not mocked, for whatever one sows, that will he also reap. 8 For the one who sows to his own flesh will from the flesh reap corruption, but the one who sows to the Spirit will from the Spirit reap eternal life.”** And this brings us to the Third possibility, you may not be saved. You may not actually be a follower of Christ. Without Christ, any peace you have in your life is at best temporary, and can change with your circumstances. Because a life without Christ is defined by disobedience to God because you are rejecting his primary command to Repent of sin and Believe in Jesus Christ, you can never experience the peace that he offers. Even if you are here today, and you claim you are a Christian, but your life is characterized by disobedience and self-centered living rather than Jesus centered living, then the lack of peace you experience may be God’s way of helping you see you are not really a follower of Christ. The solution to finding peace no matter what your circumstances are today is wrapped up in the final phrase of [Isaiah 2:5](#), **“O house of Jacob, come, let us walk in the light of the Lord.”** To walk in the light of the Lord is to follow Jesus by obeying him. Do you want peace in your life now? Obey Jesus. Do you want to experience the world in perfect peace? Obey Jesus by repenting of sins and trusting in Jesus. There is peace, and it comes through Jesus. Let’s pray.